

2021年7月1日

内閣総理大臣 菅 義偉 様
厚生労働大臣 田村 憲久 様
新型コロナウイルスワクチン接種担当大臣 河野 太郎 様

京都府保険医協会
理事長 鈴木 卓

新型コロナウイルスワクチンの安定供給の確立を

謹 啓

平素より国民の生命と健康を守るため、今般の新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、日夜ご尽力を賜りますこと、心より御礼申し上げます。

さて、64歳以下を対象とした新型コロナウイルスワクチン接種の本格化を前に、7月以降のワクチン供給が追いつかず、不足するとの報道がなされています。

なぜこのようなことが起こったのでしょうか。

これまで、京都府ならびに京都市をはじめとした市町村では、当初の混乱を乗り越え住民に安心、安全を届けたいと、京都府医師会や各地区医師会と協議を重ね、ワクチンの接種体制の構築に努力を重ねてこられました。ワクチン接種事業に携わる自治体職員も、実際に接種を担う医療者も、人々の生命と健康を守るため、休日を返上、生命をかけてたたかっています。国からの職域接種の要請に応え、企業、大学なども職員やその家族、あるいは学生を守りたいと、接種体制にかかる人員確保などに悩みながらも、接種体制を計画し整えつつありました。

6月30日、京都市は個別接種に協力する医療機関に対しワクチンの供給制限を行う旨を通知。個別接種を実施している医療機関では、新規受付を制限するなど対応を迫られています。この先、さらに供給枠が狭められるとなると、先々まで埋まっている予約をキャンセルする事態にもなりかねません。

そのような中、報道によると、自民党の新型コロナウイルス感染症対策本部と社会保障制度調査会「新型コロナウイルスに関するワクチン対策プロジェクトチーム」の役員会が、6月29日に職域や大規模接種へのモデルナ社製ワクチンの供給一時停止問題への対応検討。その中でファイザー社製の市中在庫を調整し、一部を大規模接種用に充てることにより、接種を推進すべきとの見解で一致したとされます。すでに各医療機関などの現場で混乱が広がっている中で、さらに大規模接種を優先させることは、これまでの集団接種・個別接種に尽力してきた医療者をないがしろにするものであり、到底看過できません。

私ども京都府内の開業医2400人を中心とした団体である京都府保険医協会は、このワクチン不足について問題点を明らかにするために、緊急に下記の通り早急に明らかにしていただきたい項目をとりまとめました。ご確認いただき、ぜひご回答くださいますようお願い申し上げます。

謹 白

【お伝えしたい現場の混乱】

6月30日時点で京都府内においても供給量減の影響が出始めています。京都市では、かかりつけ医がいない64歳以下の方を対象に地域の医療機関で接種が受けやすいようにと、京都府医師会が28日から運用を開始したLINE活用の予約新システムが、開始後数時間で受付を停止しました。

前文にも記述しましたが、京都市は個別接種に協力する医療機関に対しワクチンの供給制限を行う旨を通知しました。個別接種を行っている医療機関では、2回目接種が本当に行えるのかという不安が広がっており、新規の受付に萎縮せざるを得ない状

態です。また、地域の住民向けに行われている行政区ごとの集団接種では、開催時間を短縮し、受入人数を制限する会場が出始めました。

職域接種の関連では、京都市右京区にある光華女子大学で予定されていた職域接種について、すでに申請したものの厚生労働省より職域接種の一時保留の通知があったこと。伏見区の龍谷大学でも、7月1日から接種開始で準備を進めていたものの、厚生労働省から7月上旬のワクチン供給が難しいと連絡があったことなどが両大学のホームページで報告されています。また、別の大学関係者からは、「そもそも職域接種は政府からの要請であったはずで、授業や試験などの本来業務と調整しながら準備を進めてきた。開始予定日を示しているということは人員確保など手配がすすんでいるということ。そのタイミングでワクチンが供給されないというのはどういうことか」という憤りの声も聞いています。

【早急に明らかにしていただきたい項目】

1. 何故ワクチンが需要過多に陥ったのか、その見解をお教えいただきたい。
2. 解決のために具体的に都道府県、市町村、医療機関は何をすればいいのかお教えいただきたい。
3. 各医療機関では患者に説明する必要があることから、いつごろにどれだけの供給があるのかを明確に示していただきたい。
4. ワクチンの供給量が不足し、接種を実施している医療機関などで混乱が起きている中、なぜ大規模接種を優先しないといけないのかお教えいただきたい。

以上